

推しの骨、ありますか？

本橋 篤 (WMO)

野生動物に関係する仕事や生活をしていると、山での自然死、ロードキルや、狩猟など、色々な場面で動物の骨に出会います。

みなさまは骨と出会ったとき、どうしますか？私は脇目も振らずにほぼ全てを回収します。

なぜこんなことをするようになってしまったかという、大学3年生で野生動物に関する研究室に配属したことがターニングポイントとなります。研究室では、哺乳類と鳥類を中心に、有害駆除された個体から、ロードキル個体、各々が調査で見つけた死体を集め、研究室のそういうものたち用の冷凍庫に収めていました。中には、拾ったけれど忘れられてしまったものたちもいました。

そのような環境下で、指導教員と一緒に骨格標本を作ったことをきっかけに、標本作製に見事ハマってしまいました。所属する研究室は火気厳禁だったので、冷凍庫にある動物たちを片っ端から電気鍋と寸胴鍋を使って煮込み、骨にしていました。

初めは研究の材料として骨格標本を作っていたのですが、段々と趣味と化し、しまいには研究室のストックだけでは物足りず、死体を山で拾い、各所にもらえるように交渉するようになり、現在に至ります。小さいものはモグラやコウモリから、大きいものはウマヤツキノワグマなど、みなさまのおかげで色々な動物の標本作りができる機会がありました。今は少し落ち着いています。

何度も骨格標本を作っていると、より簡便に、そして標本として優秀なもの（しっかり除肉されている、脂がしみだしていない、カビが生えていない）を作る方法を模索するようになりました。

骨格標本の作製方法はたくさんあります。ひたすら煮込む、土に埋める、薬品に浸ける、虫に食べさせる…などなど。その中でも私は煮込む方式が好きです。他の方法より定期的に様子を見る必要がありますが、“場所”さえ確保してしまえばどこでもできてしまう点と、時間が経つにつれて除肉されていく姿をひたすら見ていることが好きだからです。焚火のようなものです。

一方で、気を付けるべき点は前文でも触れた”場所”です。通常、動物を煮込んだ匂いは悪臭に分類され、マンションなどで煮込みだしたら当たり前ですが苦情の嵐です。周りに迷惑をかけてまで骨格標本作製することは常識がないのでやめましょう。そして動物の死体を鍋で煮込む、土に埋める、薬品に浸けている姿は不審者の極みです。そのような点からも”場所”選びはとても大切です。

ここまで一方的に骨格標本についての情報を押し付けている気がしてきたので、一般的に骨格標本作る目的にも触れておきます。大きく分けると研究目的と教育目的になるかと思います。私はその中でも教育目的に興味があります。大学の講義や実習で形態学などを学ぶには欠かせない材料です。また、普段骨格標本に触れる機会がないような人たちにとっても生物教育の一環として重要な材料の1つになるのではないかと考えています。その一環で、もっと誰でも身近に骨格標本作れるようになったらいいなと思い、一般家庭でもスーパーやドラッグストアでも手に入るような材料での骨格標本の作り方などを紹介・公開したりしています（本橋 2020）。その中でも触れていますが、基本的にハサミ、カッター、洗濯網、鍋、

入れ歯洗浄剤、キッチンハイター、(あれば) 除光液(無香料)があれば比較的キレイな骨格標本ができます。

骨格標本の良さは作る過程の面白さだけでなく、鑑賞も楽しみの1つです。みなさんは推しの骨はありますか？

私は動物ごとに形が一目で違うような、頭蓋骨、肩甲骨、陰茎骨、骨盤(特に寛骨)あたりが好きです。一日中見ていたいのですが、実家ではそのようなことは叶わないのが現実でした(嫌がられて実家を追い出されてしまうから)。しかし、最近引っ越しをしたので、これを機に骨の鑑賞をする棚を作成しました。ここから少し骨格標本自慢をします(現地お土産、ロードキルまたはバード

ストライク、山での採取個体であり、正式な手続きを得たものたちです)。

最後に、趣味としての骨格標本作りについて話してきましたが、我々のような仕事でも標本はとても重要です。その地域にその動物がいたことの証拠にもなりますし、山の中で見つけ、同定できる部位であれば生息情報として活用できるかもしれません。

また、動物の標本は骨格標本だけでなく、毛皮標本、臓器標本などもあります。私はどれも好きで作るので話したいことはたくさんあるのですが、記事が長くなってしまおうと、画像のインパクトが骨以上にすごいので、別の機会に。

ぜひみなさんも骨格標本を作ってみてください。きっと楽しいはずですよ。



写真1：タヌキの上顎骨、下顎骨、奥には第一頸椎、肩甲骨、寛骨。実家の目の前の2車線道路でロードキルされているのを母親 with 散歩中の飼い犬が発見し、パニック状態で私に連絡してくれました。タヌキを回収して研究室に持っていった時の(何を言ってるんだ?)という母親の顔は今でも忘れません。左に少し見えているのはドブネズミの子どもです。



写真2：アライグマ@原産地アメリカの陰茎骨。後輩がお土産として買ってきてくれました。基部から先端にかけてカーブを描くように曲がり、先端が2つに分かれるのが特徴です。現地ではお守りやマドラー、ネックレスとして使われるそうです。ネットで調べると100本入り〇〇円！というような割り箸みたいな売り方をされています。



写真3：左から、アナグマ、タヌキの陰茎骨。アナグマは先端がしゃもじ型となっています。タヌキは尿管と精管を保護するように陰茎骨がへこんでいます。ちなみに犬もタヌキと似たような形をしているそうです。



写真4：左がシロハラ、右がメジロの頭骨と胸骨。胸骨には真ん中に竜骨突起と呼ばれる境界線のようなものがあり、その左右に胸肉がつきます。胸骨はその種の生活様式によって大きく形が変化します。

〈参考文献〉

本橋篤 (2020)、一般家庭でも実施可能な骨格標本作製法が記載されている論文の紹介、ニッチェ・ライフ、8、pp: 33-35、報告・紹介